

三重県経済の現状と見通し<2024年1月>

1. 景気判断一覧表

部門	個別項目	水準評価 ※1	基調判断(前月比較)※2	
				詳細
総括判断	景気の現状			一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる 海外経済の減速から企業活動の一部に弱さがみられるものの、個人消費や設備投資は持ち直しているなど、持ち直しの動きがみられる。
家計部門	個人消費			持ち直している 新車・乗用車販売台数は、16か月連続の前年比増加
	住宅投資			足踏み 住宅着工戸数は、2か月連続の前年比減少
	観光			回復に向けた動き 外国人宿泊者数は、20か月連続の前年比増加
	雇用・所得			概ね横這い 新規求人倍率(季節調整値)は、2か月連続の前月比低下
企業部門	企業活動			持ち直しつつある 鉱工業生産指数は、2か月振りの前年比低下
	企業倒産			悪化しつつある 倒産件数は、8か月連続の前年比増加
	設備投資			持ち直しつつある 貨物車登録台数は、2か月連続の前年比減少
海外部門	輸出			持ち直しつつある 四日市港通関輸出額は、5か月連続の前年比増加
公共部門	公共投資			足踏み 公共工事請負金額は、3か月連続の前年比増加
その他	物価			上昇している 津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、23か月連続の前年比上昇

当面の見通し	物価高や世界経済の不透明感から、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し
	生産活動の回復やインバウンド需要の持ち直しが期待される一方、物価高や欧米の金融引き締め継続など世界経済を巡る不透明感は強く、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し。

※1「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、

☀:晴、☀|☁:晴～曇、☁:曇、☁|☂:曇～雨、☂:雨、を示す。

※2「基調判断(前月比較)」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、

↗:上方修正、→:据え置き、↘:下方修正を示す。

(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三十三総研 調査部 内田
	電話:059-354-7102 Mail:33ir@33bank.co.jp

2. 個別部門の動向: 家計部門

個人消費	水準評価		⇒	詳細	持ち直している
	基調判断	前月比較			

◀現状▶

- 個人消費は、持ち直している。
- 個人消費の動向を支出者側からみると、11月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比+30.4%と4か月連続の増加(図表1)。勤労者世帯可処分所得(津市)は同+24.6%と2か月振りの増加(前掲図表1)。
- 個人消費の動向を販売者側からみると、11月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースで前年比+1.6%と8か月連続の増加、既存店ベースも同+0.4%と2か月連続の増加(図表2)。全店ベースを商品別にみると、飲食料品(同+1.4%)が8か月連続、衣料品(同+3.8%)が3か月振りにそれぞれ増加。
- 12月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、6,218台(前年比+5.7%)となり、前年比で16か月連続の増加(図表3)。車種別にみると、軽自動車(同▲4.1%)が5か月振り、小型車(同▲0.2%)が4か月連続で減少した一方、普通車(同+19.8%)が12か月連続で増加。普通車を中心に生産制約が改善。

◀見通し▶

- 東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、12月の家計部門の水準は51.0と前月(48.6)から上昇し、好不況の分かれ目となる50を2か月振りに上回った。ボーナスの支給により購買意欲が促進されたとの声がみられた。2~3か月先の先行きに対する判断DIについては、46.5と前月(50.0)から低下し、好不況の分かれ目の50を3か月振りに下回った。引き続き、インバウンドの回復に期待が持てる一方、物価上昇が懸念材料に。
- 地域経済分析システム「V-RESAS」をみると、執筆時点で最新データである1月第2週の移動人口は新型コロナ前の2019年同週比▲7%と人流は概ねコロナ前の水準まで回復。中国の団体旅行の解禁によりインバウンド消費の増加が見込まれるなど、対人サービス消費の緩やかな持ち直しが続くと予想される。もっとも、物価上昇を受けた節約志向の高まりが消費回復を頓挫させるリスクに注意が必要。

◆11月 勤労者世帯・消費支出

○ 358千円 前年比 +30.4% (4か月連続の増加)

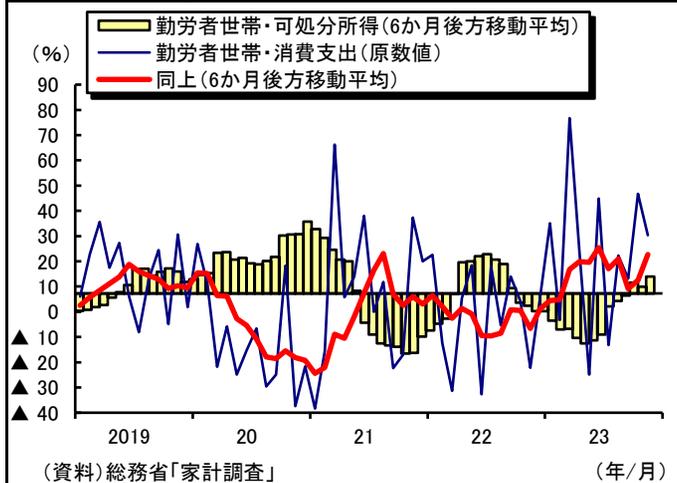
◆11月 大型小売店販売額

○ 全店 前年比 +1.6% (8か月連続の増加)
○ 既存店 前年比 +0.4% (2か月連続の増加)

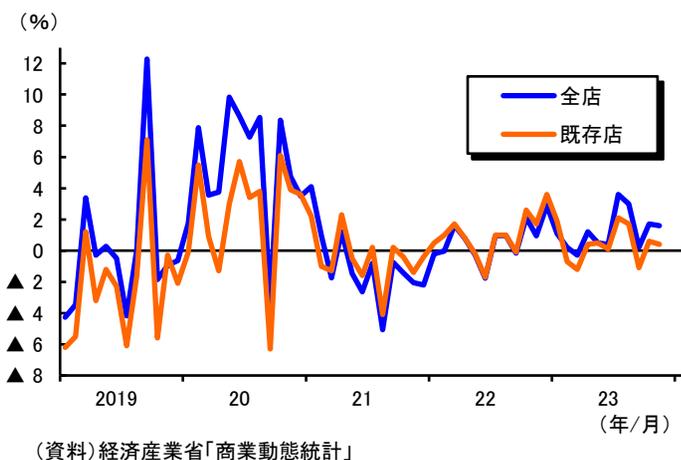
◆12月 新車乗用車販売台数<含む軽>

○ 6,218台 前年比 +5.7% (16か月連続の増加)
・普通車 2,659台 前年比 +19.8% (12か月連続の増加)
・小型車 1,168台 前年比 ▲0.2% (4か月連続の減少)
・軽乗用車 2,391台 前年比 ▲4.1% (5か月振りの減少)

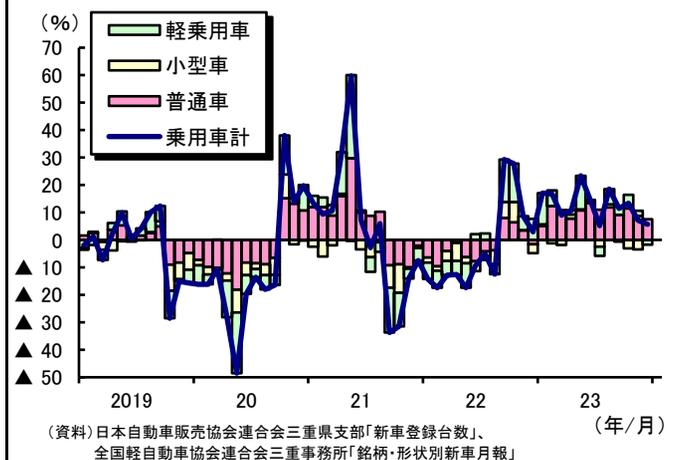
図表1 津市消費支出等<前年比>



図表2 大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



住宅投資	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	足踏み

《現状》
 ○住宅投資は、足踏み。
 ○11月の住宅着工戸数は、638戸（前年比▲14.7%）となり、前年比で2か月連続の減少（図表4）。利用関係別にみると、持家（同▲17.2%）が4か月連続、貸家（同▲0.9%）が2か月連続、分譲住宅（同▲32.4%）が9か月連続でそれぞれ減少。

《見通し》
 ○先行きは経済活動の再開に伴う住宅取得意欲の向上により、住宅投資は持ち直すと見込まれる。なお、資材費や人件費が上昇しており、大手住宅メーカーが戸建て住宅の値上げを進めているなど、今後も住宅価格の上昇が続く見通し。

◆11月 住宅着工戸数

○ 638戸	前年比 ▲14.7%	(2か月連続の減少)
・持家	336戸	前年比 ▲17.2% (4か月連続の減少)
・貸家	226戸	前年比 ▲0.9% (2か月連続の減少)
・給与住宅	1戸	前年比 ▲66.7% (3か月振りの減少)
・分譲住宅	75戸	前年比 ▲32.4% (9か月連続の減少)

図表4 新設住宅着工戸数<前年比>

(資料)国土交通省「建築着工統計」 (年/月)

観光	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	回復に向けた動き

《現状》
 ○観光は、回復に向けた動き。
 ○10月の三重県内施設延べ宿泊者数は、648千人泊（前年比+1.7%）となり、前年比で2か月連続の増加（図表5）。外国人宿泊者数も30千人泊（同+151.8%）と、前年比で20か月連続の増加。

《見通し》
 ○三重県は、正月三が日（1～3日）の県内の主要な観光施設を訪れた客数が、21か所で延べ966,102人と2023年同期比で22,493人増加したと発表。昨年12月から実施している「平日ゆったりみえ旅キャンペーン」も観光客数増加に寄与することが期待され、今後も観光は回復に向けた動きが続く見通し。

◆10月 県内施設延べ宿泊者数

○ 648千人泊	前年比 +1.7%	(2か月連続の増加)
・外国人	30千人泊	前年比 +151.8% (20か月連続の増加)

図表5 三重県内施設延べ宿泊者数

(資料)国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」 (年/月)

雇用・所得	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	概ね横這い

《現状》

- 雇用・所得情勢は、概ね横這い。
- 11月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.26倍(前月差▲0.03ポイント)と3か月振りの低下。新規求人倍率(季節調整値)は、2.02倍(同▲0.10ポイント)と2か月連続の低下(図表6)。
- 11月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比▲12.1%と11か月連続の減少(図表7)。業種別にみると、製造業(同▲12.9%)では、生産用機械(同+71.2%)や金属製品(同+10.8%)が増加した一方、電気機械(同▲41.3%)や汎用機械(同▲40.0%)などで減少。非製造業では、運送業、郵便業(同+7.5%)や生活関連サービス業、娯楽業(同+14.4%)などが増加した一方、宿泊業、飲食サービス業(同▲50.3%)や卸売業、小売業(同▲35.5%)などが減少。
- 10月の所定外労働時間指数は、前年比▲12.4%と16か月連続の低下。きまって支給する給与(同+1.8%)は4か月連続、名目賃金指数(同+2.6%)は2か月連続の上昇(図表8)。

《見通し》

- 東海財務局津財務事務所が発表した2023年10～12月期の法人企業景気予測調査によると、従業員判断BSI(「不足気味」-「過剰気味」)は、全産業で32.8%ポイントの「不足気味」超となっており、中長期的な人手不足への懸念から雇用を確保する動きが続くなか、雇用情勢の更なる改善が期待できる。なお、世界経済の減速や原材料価格高騰による生産調整などの影響には注視が必要。
- 所得については、足元の物価高を踏まえたベアの広がりや最低賃金の上昇、人手不足感の深刻化を受けて幅広い業種で賃金上昇が期待される。ただし、収益環境が悪化している中小企業で慎重な賃金設定スタンスが維持されることから、物価上昇を上回る賃金上昇には至らない見通し。

◆11月 求人倍率<季節調整値>

- 有効求人倍率 1.26倍
前月差 ▲0.03ポイント (3か月振りの低下)
- 新規求人倍率 2.02倍
前月差 ▲0.10ポイント (2か月連続の低下)

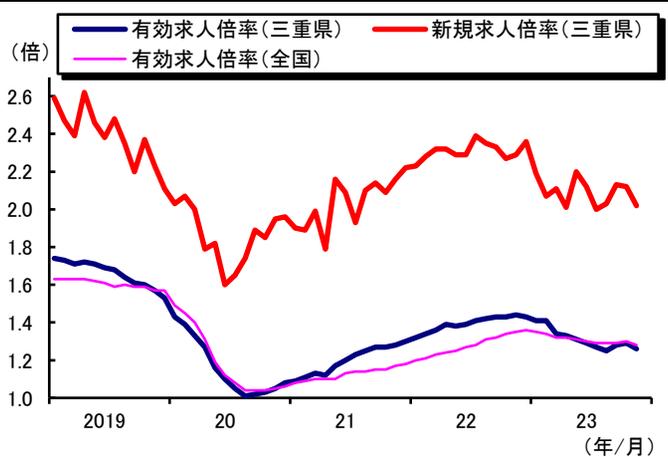
◆11月 新規求人数<学卒・パートタイム除く>

- 前年比 ▲12.1% (11か月連続の減少)

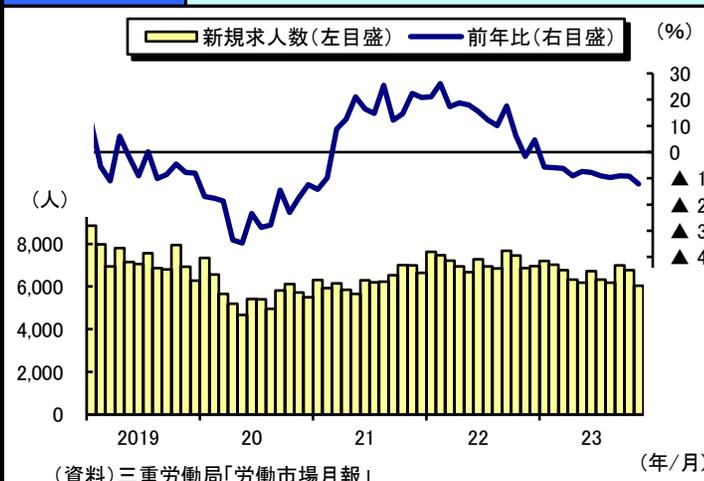
◆10月 労働時間・賃金指数<調査産業計>

- 所定外労働時間指数
前年比 ▲12.4% (16か月連続の低下)
- 名目賃金指数
前年比 +2.6% (2か月連続の上昇)
- ・きまって支給する給与
前年比 +1.8% (4か月連続の上昇)

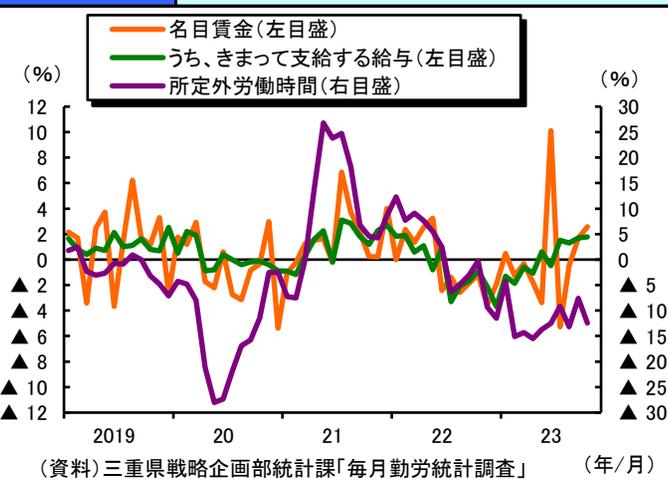
図表6 有効・新規求人倍率<季節調整値>



図表7 新規求人数<学卒・パート除く>



図表8 労働時間・賃金指数 <調査産業計、前年比>

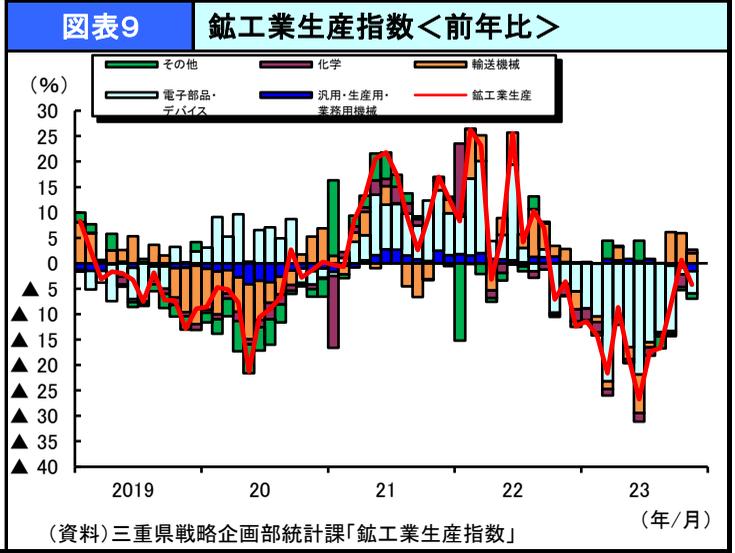


3. 個別部門の動向:企業部門

企業活動	水準評価		⇒	詳細	持ち直しつつある
	基調判断	前月比較			
<p>《現状》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企業の生産活動は、持ち直しつつある。 ○11月の鉱工業生産指数は、前年比▲4.2%と2か月振りの低下(図表9)。業種別にみると、電子部品・デバイス工業(同▲15.6%)などが低下した一方、輸送機械工業(同+7.9%)が上昇。 <p>《見通し》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先行き生産は、持ち直しの傾向が続く見通し。 ○電子部品・デバイスは、キオクシア四日市工場が世界的な半導体関連需要の低迷により、2022年10月より半導体の製造に欠かせない材料である基板(ウエハー)の投入量を計画比で3割削減する生産調整を続けており、回復までに時間を要す見通し。 ○輸送機械は、ホンダ鈴鹿製作所の生産について、車載半導体不足の影響により2023年2月まで減産が続いてきたものの、足元では状況が改善しており通常通り稼働している。生産は回復傾向にあるものの、これまでの減産により受注が積み上がっており、主力車種で納期遅れなどの影響が続く見通し。 					

◆11月 鉱工業生産指数<2015年=100>

- 115.7 前年比 ▲4.2% (2か月振りの低下)
- ・ 汎用・生産用・業務用機械工業 前年比 ▲20.0% (3か月連続の低下)
- ・ 電子部品・デバイス工業 前年比 ▲15.6% (14か月連続の低下)
- ・ 輸送機械工業 前年比 +7.9% (3か月連続の上昇)
- ・ 化学工業 前年比 +7.8% (7か月振りの上昇)



企業倒産	水準評価		⇒	詳細	悪化しつつある
	基調判断	前月比較			

《現状》

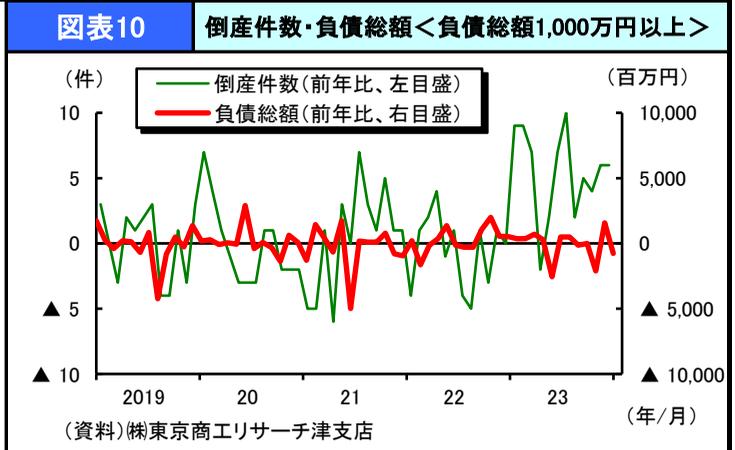
- 企業倒産は、悪化しつつある。
- 12月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は13件(前年比+6件)と8か月連続の増加。負債総額は643百万円(同▲772百万円)と2か月振りの減少(図表10)。

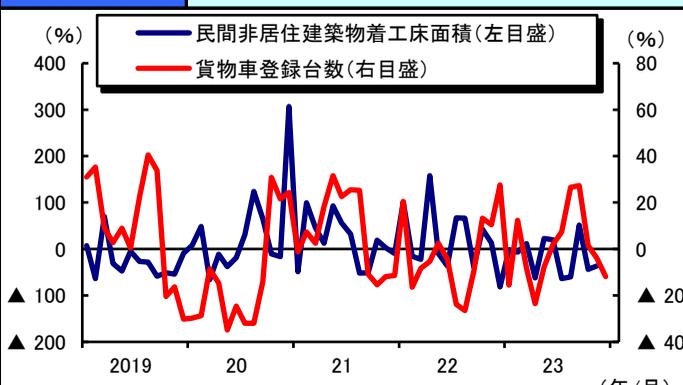
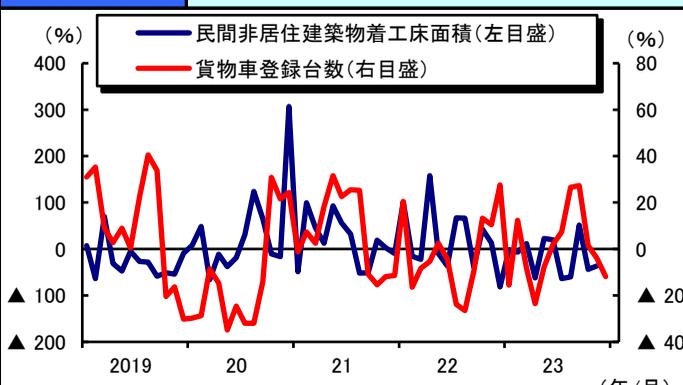
《見通し》

- 「実質無利子・無担保融資(ゼロ・ゼロ融資)」の元利返済がピークを迎え、金融機関からの支援を得られず経営再建を断念する息切れ倒産の増加が懸念される。また、業績回復が遅れ返済原資を捻出できない企業が多く、物価高や人件費の上昇などコスト負担が増加しており、収益悪化が続くと企業倒産は増勢基調をたどる懸念も。

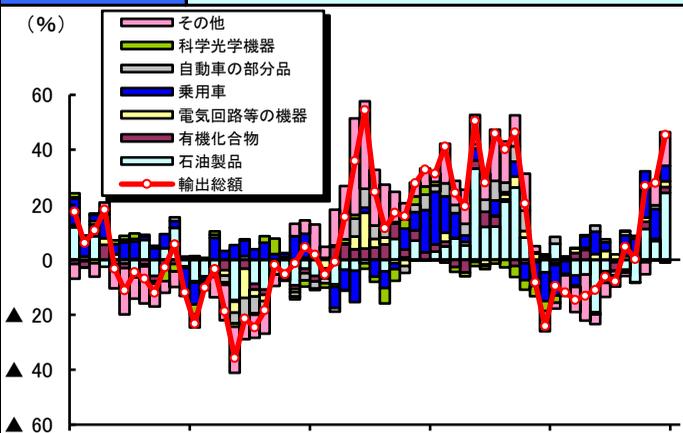
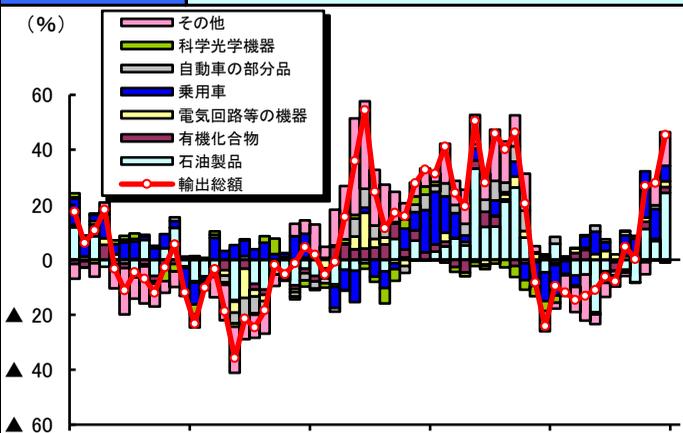
◆12月 企業倒産

- 倒産件数 13件 前年比 +6件 (8か月連続の増加)
- 負債総額 643百万円 前年比 ▲772百万円 (2か月振りの減少)



設備投資	水準評価		☀️☁️		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	持ち直しつつある
<p>◀️<現状></p> ○企業の設備投資は、持ち直しつつある。</p> ○11月の民間非居住建築物着工床面積は、35千㎡(前年比▲36.8%)と前年比で2か月連続の減少。11月の貨物車登録台数(除く軽)は、433台(同▲11.8%)と前年比で2か月連続の減少(図表11)。</p> ▶️<見通し></p> ○2023年10～12月期の法人企業景気予測調査によると、県内企業の2023年度設備投資見込みは、全産業で前年度比+47.6%の増加となっており、投資マインドは改善傾向に。なお、世界経済の減速や円安に伴う原材料価格高騰による収益圧迫が設備投資を抑制する懸念もあり、今後の動向に注視が必要。</p> ○関西や中部を中心に「ラーメンまこと屋」を約70店舗国内展開するマコトフードサービス(大阪市)は、三重県多気町の工業用地に新工場を建設する。初めての自社工場で、これまで製造を外注していた麺やスープなどを内製化する。投資額は約10億円で、鉄骨平屋建て。2024年春にも着工し、2025年2月の全面稼働を目指す。</p> </td> </p>					
<p>◆11月 民間非居住建築物着工床面積</p> ○ 35千㎡ 前年比 ▲36.8% (2か月連続の減少)</p> ◆12月 貨物車登録台数</p> ○ 433台 前年比 ▲11.8% (2か月連続の減少)</p> </td> <td colspan="3"> <p>図表11 設備投資関連指標<前年比></p> (%)</p>  (資料)国土交通省「建築着工統計」、日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」、三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p> </td> </p></td></p>			<p>図表11 設備投資関連指標<前年比></p> (%)</p>  (資料)国土交通省「建築着工統計」、日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」、三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p> </td> </p>		

4. 個別部門の動向:海外部門

輸出	水準評価		☁️		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	持ち直しつつある
<p>◀️<現状></p> ○輸出は、持ち直しつつある。</p> ○12月の四日市港通関輸出額は、1,109億円(前年比+45.5%)となり、前年比で5か月連続の増加(図表12)。品目別にみると、科学光学機器(同▲50.6%)や自動車の部分品(同▲2.4%)などが減少した一方、石油製品(同+60倍)や乗用車(同+50.4%)、有機化合物(同+27.7%)などが増加。</p> ▶️<見通し></p> ○半導体不足などの供給制約の緩和が進み自動車関連の復調が輸出を押し上げる見通し。もっとも、景気回復が期待された中国向けが伸び悩んでおり懸念材料に。</p> </td> </p>					
<p>◆12月 四日市港通関輸出額</p> ○ 1,109億円 前年比 +45.5% (5か月連続の増加)</p> ・石油製品 189億円 前年比 +60倍 (3か月連続の増加)</p> ・有機化合物 74億円 前年比 +27.7% (4か月連続の増加)</p> ・電気回路等の機器 96億円 前年比 +19.5% (11か月連続の増加)</p> ・乗用車 130億円 前年比 +50.4% (5か月連続の増加)</p> ・自動車の部分品 93億円 前年比 ▲2.4% (2か月振りの減少)</p> ・科学光学機器 5億円 前年比 ▲50.6% (4か月連続の減少)</p> </td> <td colspan="3"> <p>図表12 四日市港通関輸出額<前年比></p> (%)</p>  (資料)名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p> </td> </p></td></p>			<p>図表12 四日市港通関輸出額<前年比></p> (%)</p>  (資料)名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p> </td> </p>		

5. 個別部門の動向:公共部門

公共投資	水準評価		⇒	詳細	足踏み
	基調判断	前月比較			
<p>《現状》</p> <p>○公共投資は、足踏み。</p> <p>○12月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比+7.0%と3か月連続の増加。請負金額も同+4.2%と3か月連続の増加(図表13)。請負金額を発注者別にみると、国(同▲73.2%)や独立行政法人等(同▲75.1%)、が減少した一方、県(同+68.4%)や市町(+16.6%)で増加。</p> <p>《見通し》</p> <p>○三重県の2023年度補正予算で、防災・減災、県土強靱化等を推進するため、約214億円を2024年度当初予算から前倒して計上するなど、公共投資は持ち直して推移する見通し。近鉄四日市駅周辺の「バスタプロジェクト」や四日市港北埠頭の国際物流ターミナル整備事業も長期的に押し上げに作用する見込み。</p>					
<p>◆12月 公共投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公共工事請負件数 260件 前年比 +7.0% (3か月連続の増加) ○ 公共工事請負金額 75億円 前年比 +4.2% (3か月連続の増加) 					
<p>図表13 公共工事請負金額</p> <p>(資料)東日本建設業保証㈱三重支店 (年/月)</p>					

6. 個別部門の動向:その他

物価	水準評価		⇒	詳細	上昇している
	基調判断	前月比較			
<p>《現状》</p> <p>○物価は、上昇している。</p> <p>○12月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比+1.5%と23か月連続の上昇(図表14)。光熱・水道(同▲16.7%)が下落した一方、生鮮食品を除く食料(同+5.4%)や教養娯楽(同+7.2%)など、多くの項目で上昇。</p> <p>《見通し》</p> <p>○原油価格上昇の影響や企業の価格転嫁が想定を上回る水準で進んでおり、今後も消費者物価は上昇が続く見通し。2023年1月使用分から実施されてきた政府の物価高対策による電気代・ガス代への補助額が10月より半減しており、今後の動向に注視が必要。</p>					
<p>◆12月 消費者物価指数<生鮮食品を除く、2020年=100></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 105.9 前年比 +1.5% (23か月連続の上昇) ・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +5.4% (29か月連続の上昇) ・住居 前年比 +0.1% (15か月連続の上昇) ・光熱・水道 前年比 ▲16.7% (9か月連続の下落) ・交通・通信 前年比 +1.4% (18か月連続の上昇) ・教養娯楽 前年比 +7.2% (12か月連続の上昇) 					
<p>図表14 津市消費者物価指数<前年比></p> <p>(資料)総務省「消費者物価指数」 (年/月)</p>					

県内経済



トピックス

(2023年12月)

1. 日本最大級のRVパークがヴィゾンにオープン

○12月12日、多気町の商業リゾート施設「ヴィゾン」は車中泊ができる「RV (Recreational Vehicle) パークVISON」をオープン。温浴施設「本草湯」前の駐車場を、60区画備える日本最大級の施設に整備した。

○ヴィゾンは伊勢志摩や東紀州へのアクセスが良く、キャンピングカーの利用が多いため、これまでも車中泊を受け入れてきた。需要が高まり、日本RV協会が認定する車中泊施設「RVパーク」としてリニューアル。広い駐車区画を造り、24時間利用可能なトイレやキャンピングカーの汚水を処理できるダンプステーション、電源設備を設置。内覧会で久保行央多気町長は「食と健康をテーマにぎゅっとまとめたのがヴィゾン。多気町と周囲のまちが連携して取り組んでいる。車で来て、おいしいものを食べ、薬草湯に入ってほしい」と述べた。

2. 県内唯一のフルマラソン大会「みえ松阪マラソン」が開催

○12月17日、三重県内唯一のフルマラソン大会「みえ松阪マラソン」は松阪市で第2回大会を開催。全国から来場したランナーが同市内のコース42.195キロを駆け抜けた。定員は8,000人で、同市川井町のクラギ文化ホール前をスタートし、ゴールは同市山下町の市総合運動公園。

○同大会は新型コロナ禍による2度の延期を経て昨年初開催。第2回となる今回は、エイドステーションを17か所設け松阪牛などが提供されたほか、阿波曾蛸路(あわそたこじ)トンネルの約1キロはプロジェクションマッピングなどイルミネーションが設置され走者を元気づけた。男子は川内優輝選手、女子は松村幸栄(ゆきえ)選手が優勝。川内選手は「大会記録を更新したらやめるつもりだったが(大会記録のタイムを)切れなかったので、また来ないと。次回は大会記録を狙う」と再戦を誓った。

3. 三重県が4市町と洋上風力発電の勉強会を立ち上げ

○12月22日、一見勝之三重県知事は定例記者会見で、洋上風力発電の勉強会を沿岸の4市町(伊勢、鳥羽、志摩、南伊勢)と立ち上げると発表。洋上風力発電を設置する効果と課題を研究する。県によると、洋上風力発電の問い合わせが発電事業者から市町に寄せられていることなどを受けた対応であり、洋上風力発電を設置できる可能性がある各市町と合同で立ち上げる。

○勉強会には県と市町の担当者らが出席し、洋上風力発電が周辺環境に与える影響や、雇用の創出をはじめとする経済波及効果などを学ぶ予定。一見知事は「勉強会を通じて洋上風力発電の実現可能性を探る」と説明した。

以上

景気指標

三十三総研
2024/1/31

<三重県>

(注) ()内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2022年	2023年	2023年				2023年				
			1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	8月	9月	10月	11月	12月
大型小売店販売額(全店)	(0.7)		(0.4)	(0.7)	(2.3)		(3.0)	(0.2)	(1.7)	(1.6)	
同 (既存店)	(1.0)		(0.0)	(0.3)	(0.9)		(1.7)	(▲ 1.1)	(0.6)	(0.4)	
新車販売台数(軽を除く、台)	48,182 (▲ 7.3)	54,820 (13.8)	16,164 (12.0)	11,825 (16.7)	13,377 (17.1)	13,454 (10.4)	3,975 (21.6)	4,996 (15.9)	4,514 (12.8)	4,563 (7.4)	4,377 (11.0)
うち乗用車販売台数(台)	42,059 (▲ 7.6)	48,492 (15.3)	14,498 (14.1)	10,410 (19.9)	11,726 (16.3)	11,858 (12.0)	3,476 (21.2)	4,341 (14.3)	3,991 (14.1)	4,040 (9.1)	3,827 (12.9)
新車軽自動車販売台数(台)	37,926 (3.1)	39,708 (4.7)	11,879 (9.4)	8,639 (7.7)	9,054 (▲ 0.8)	10,136 (2.2)	2,744 (9.1)	3,578 (1.6)	3,486 (5.3)	3,470 (0.3)	3,180 (1.1)
うち乗用車販売台数(台)	28,780 (0.2)	31,028 (7.8)	9,432 (12.7)	6,735 (10.1)	7,069 (3.9)	7,792 (4.1)	2,097 (14.3)	2,798 (7.5)	2,728 (12.2)	2,673 (4.5)	2,391 (▲ 4.1)
新設住宅着工戸数(戸)	9,912 (▲ 2.9)		2,258 (▲ 0.2)	2,332 (▲ 9.6)	2,543 (▲ 12.6)		883 (▲ 12.8)	908 (6.0)	733 (▲ 11.6)	638 (▲ 14.7)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	6,945 (34.1)		1,766 (27.4)	1,560 (▲ 3.0)	1,880 (▲ 0.7)		737 (▲ 3.5)	598 (3.7)	648 (1.7)		
有効求人倍率(季調済)	1.39		1.39	1.31	1.26		1.25	1.28	1.29	1.26	
新規求人倍率(季調済)	2.30		2.12	2.11	2.05		2.03	2.13	2.12	2.02	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	86,008 (13.5)		21,002 (▲ 6.0)	19,224 (▲ 8.1)	19,497 (▲ 9.2)		6,184 (▲ 9.7)	6,988 (▲ 9.0)	6,765 (▲ 9.2)	6,041 (▲ 12.1)	
名目賃金指数(調査産業計)	(▲ 0.7)		(▲ 0.4)	(2.7)	(▲ 1.9)		(▲ 0.5)	(1.7)	(2.6)		
実質賃金指数(同)	(▲ 3.7)		(▲ 4.9)	(▲ 0.8)	(▲ 4.9)		(▲ 3.1)	(▲ 1.2)	(▲ 0.2)		
所定外労働時間(同)	(0.5)		(▲ 11.4)	(▲ 14.0)	(▲ 9.9)		(▲ 13.2)	(▲ 7.6)	(▲ 12.4)		
常用雇用指数(同)	(0.0)		(1.9)	(2.6)	(3.2)		(2.9)	(3.5)	(2.8)		
鉱工業生産指数	(6.7)		(▲ 16.2)	(▲ 19.1)	(▲ 14.0)		(▲ 16.7)	(▲ 8.2)	(0.7)	(▲ 4.2)	
	-		<▲ 2.1>	<▲ 4.3>	< 2.2>		<▲ 0.2>	< 9.1>	<▲ 2.8>	< 2.3>	
生産者製品在庫指数	(▲ 2.7)		(▲ 0.8)	(▲ 0.7)	(▲ 2.4)		(▲ 2.3)	(▲ 2.7)	(0.1)	(2.9)	
	-		<▲ 0.7>	< 0.9>	< 2.4>		< 2.1>	<▲ 2.1>	<▲ 0.1>	< 2.6>	
企業倒産件数(件)	65	130	39	22	31	38	4	11	13	12	13
(前年同期(月)比)(件)	(▲ 7)	(65)	(25)	(7)	(17)	(16)	(2)	(5)	(4)	(6)	(6)
民間非居住建築物着工床面積(千㎡)	787 (0.5)		151 (▲ 0.6)	179 (▲ 31.5)	108 (▲ 48.2)		23 (▲ 60.0)	39 (51.5)	43 (▲ 43.7)	35 (▲ 36.8)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	▲ 1,546,536	▲ 1,325,387	▲ 421,412	▲ 287,292	▲ 264,478	▲ 352,205	▲ 97,803	▲ 93,583	▲ 83,390	▲ 134,383	▲ 134,432
輸出(百万円)	1,103,427 (21.3)	1,124,745 (1.9)	235,570 (▲ 10.8)	251,844 (▲ 9.2)	294,931 (1.5)	342,400 (26.2)	96,089 (6.4)	105,098 (1.1)	127,165 (27.2)	104,306 (17.7)	110,929 (34.0)
四日市港 輸出(百万円)	1,053,981 (22.9)	1,075,974 (2.1)	222,981 (▲ 12.1)	238,865 (▲ 10.0)	280,751 (▲ 1.2)	333,377 (32.9)	87,806 (4.7)	104,295 (0.3)	118,193 (26.9)	104,255 (28.0)	110,929 (45.5)
輸入(百万円)	2,649,963 (65.0)	2,450,132 (▲ 7.5)	656,982 (23.5)	539,136 (▲ 18.0)	559,409 (▲ 30.2)	694,605 (5.3)	193,892 (▲ 35.1)	198,681 (▲ 25.9)	210,555 (▲ 5.6)	238,689 (19.2)	245,361 (3.8)
公共工事請負金額(億円)	1,916 (8.6)	1,844 (▲ 3.7)	417 (7.4)	530 (▲ 11.8)	563 (▲ 12.2)	334 (17.0)	190 (11.9)	211 (▲ 1.2)	162 (36.8)	96 (1.9)	75 (4.2)
津市消費者物価指数	(2.5)	(2.9)	(4.1)	(3.1)	(2.6)	(2.0)	(2.3)	(2.4)	(2.4)	(2.0)	(1.5)
同 (除く生鮮)	(2.3)	(2.7)	(3.9)	(3.0)	(2.4)	(1.7)	(2.2)	(2.1)	(1.9)	(1.7)	(1.3)

<東海3県(三重・愛知・岐阜)>

	2022年	2023年	2023年				2023年				
			1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	8月	9月	10月	11月	12月
大型小売店販売額(全店)	(2.0)		(1.5)	(1.1)	(2.6)		(3.3)	(1.6)	(1.6)	(2.2)	
同 (既存店)	(1.7)		(0.8)	(0.3)	(1.9)		(2.6)	(1.0)	(1.2)	(1.8)	
新設住宅着工戸数(戸)	80,112 (▲ 0.5)		17,162 (▲ 11.8)	18,039 (▲ 10.9)	20,059 (▲ 0.6)		6,952 (3.2)	6,528 (3.0)	6,421 (3.0)	6,197 (2.9)	
有効求人倍率(季調済)	1.43		1.43	1.37	1.38		1.38	1.37	1.38	1.37	
新規求人倍率(季調済)	2.51		2.42	2.43	2.37		2.38	2.35	2.50	2.36	
鉱工業生産指数	(▲ 1.9)		(▲ 3.3)	(5.9)	(3.9)		(3.6)	(0.8)	(12.8)	(6.0)	
	-		< 0.5>	< 4.8>	< 0.5>		<▲ 3.0>	< 1.0>	< 0.7>	< 2.5>	
企業倒産件数(件)	534	799	203	190	190	216	52	71	66	76	74
(前年同期(月)比)(件)	(▲ 4)	(265)	(104)	(55)	(48)	(58)	(12)	(16)	(8)	(26)	(24)
域内外国貿易 純輸出(億円)	67,171	88,899	14,088	21,735	26,019	27,057	7,078	9,800	9,119	8,163	9,775
輸出(億円)	190,724 (12.3)	212,571 (11.5)	45,515 (3.4)	50,877 (10.9)	56,261 (15.4)	59,918 (15.1)	17,149 (19.0)	20,017 (13.7)	20,287 (17.5)	19,195 (8.4)	20,437 (19.6)
輸入(億円)	123,553 (41.9)	123,672 (0.1)	31,426 (19.4)	29,142 (▲ 3.8)	30,242 (▲ 11.6)	32,862 (0.4)	10,071 (▲ 17.5)	10,217 (▲ 13.2)	11,168 (▲ 0.8)	11,032 (3.7)	10,662 (▲ 1.5)

各指標における直近の数値